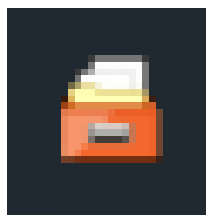


タスクバーのアイコンの色が異なる

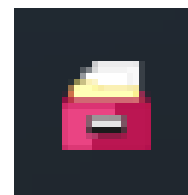
●アイコンの色

Windows版アプリ（Ver2.x）	Ver2.xのタスクバーのアイコンは、オレンジ色になります。
Windowsクライアント版アプリ（Ver3.x）	Ver3.xのタスクバーのアイコンは、ピンク色になります。

< Windows版アプリ（Ver2.x）のアイコン >



< Windows版アプリ（Ver3.x）のアイコン >

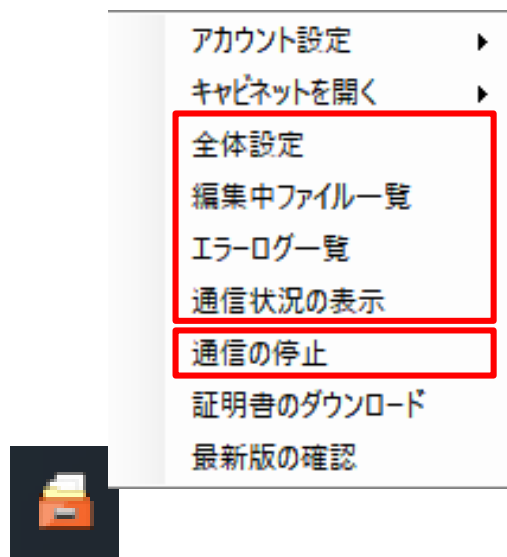


タスクバーのアイコンクリック時のメニューが異なる

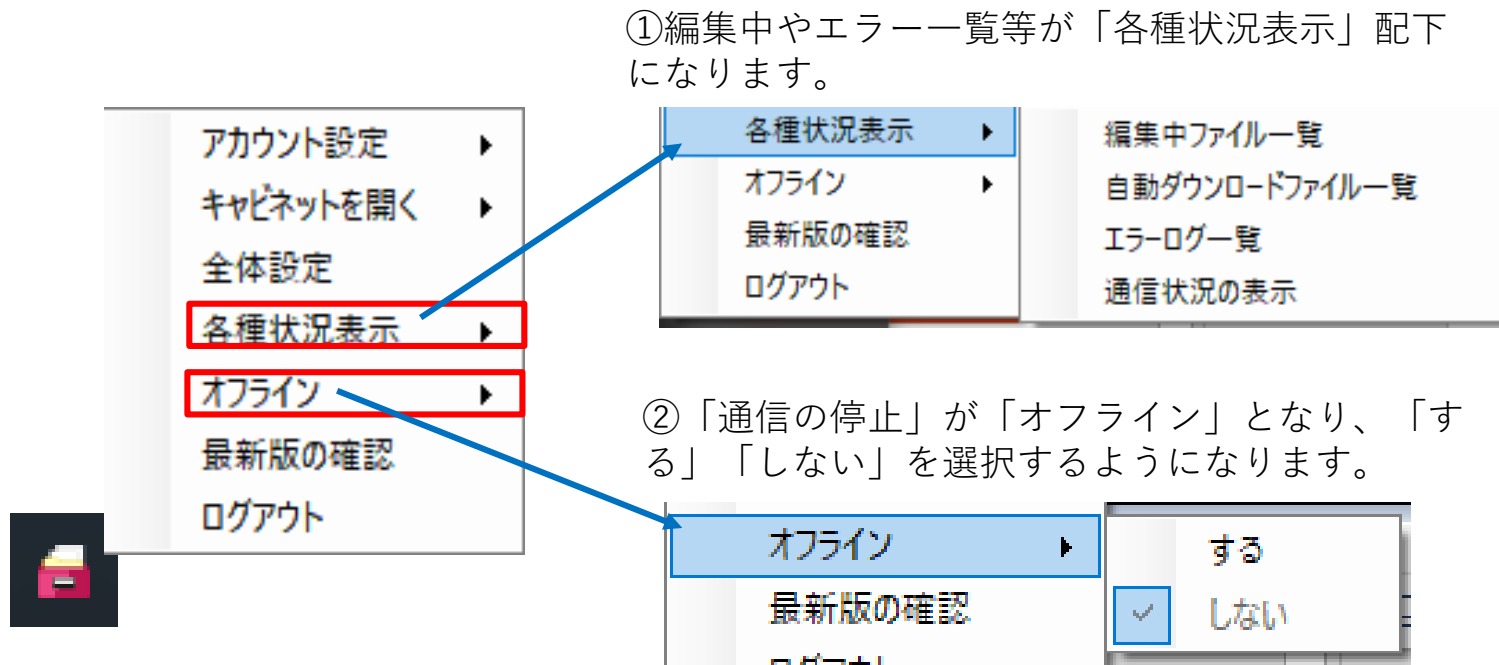
●アイコンクリック時のメニュー

Windows版アプリ (Ver2.x)	「アカウント設定」と「キャビネットを開く」以外は、一覧でメニューが表示されます。
Windowsクライアント版アプリ (Ver3.x)	一部メニューが階層化され、「各種状況表示」配下でメニューが表示されます。Ver2.xの「通信の停止」が「オフライン」に置き換わります。

< Windows版アプリ (Ver2.x) のメニュー画面 >



< Windowsクライアント版アプリ (Ver3.x) のメニュー画面 >



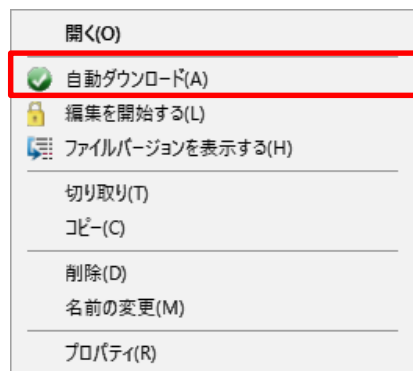
ファイル選択時の右クリックメニューが異なる

●右クリック時のメニュー

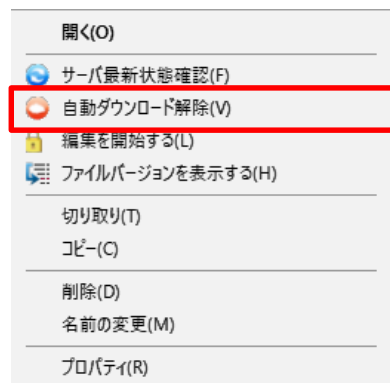
Windows版アプリ (Ver2.x)	ファイルの状態により、自動ダウンロードに関するメニュー名が変わります。（自動ダウンロード／自動ダウンロード解除）
Windowsクライアント版アプリ (Ver3.x)	メニュー名が「自動ダウンロード」に固定となり、自動ダウンロードの設定と解除は、サブメニューで選択する仕様になります。（設定する／解除する）

< Windows版アプリ (Ver2.x) のメニュー画面 >

①仮想ファイル状態で右クリックすると、「自動ダウンロード」が表示されます。



②自動ダウンロード状態で右クリックすると、「自動ダウンロード解除」が表示されます。



< Windowsクライアント版アプリ (Ver3.x) のメニュー画面 >

①仮想ファイルの状態では右クリックすると、「自動ダウンロード」メニューが表示され、サブメニュー内で「設定する」が表示されます。



②自動ダウンロード状態で右クリックすると、「自動ダウンロード」メニューが表示され、サブメニュー内で「解除する」が表示されます。

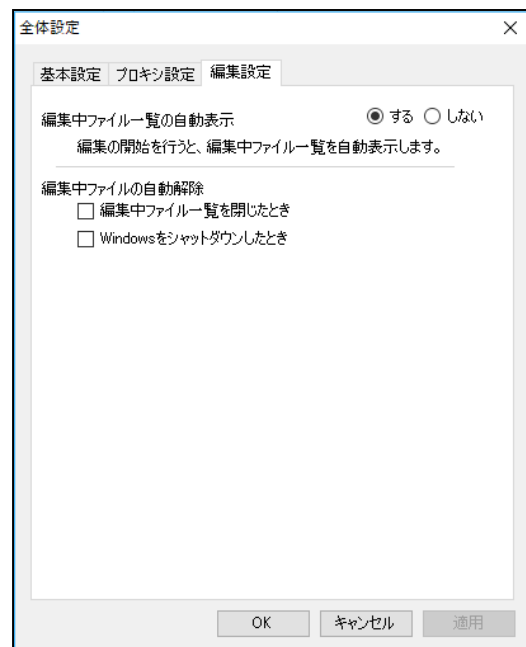


タスクバーのメニュー(全体設定-[編集設定])が異なる

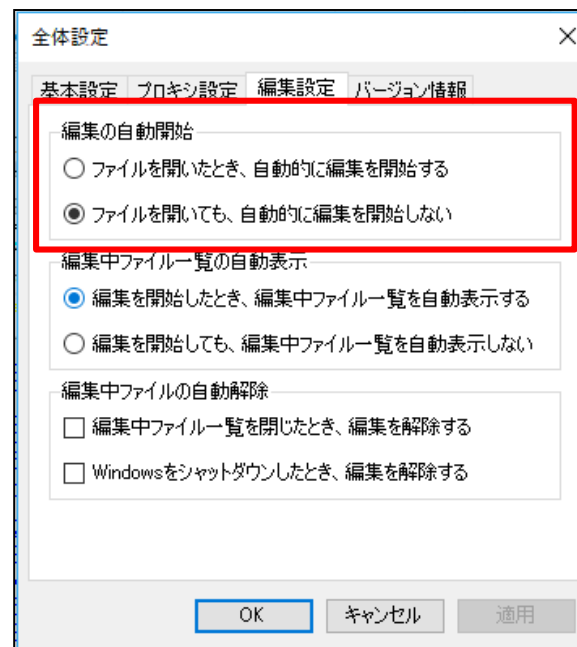
●全体設定

Windows版アプリ (Ver2.x)	「編集中ファイル一覧の自動表示」と「編集中ファイルの自動解除」が表示されます。
Windowsクライアント版アプリ (Ver3.x)	「編集の自動開始」が追加されました。

< Windows版アプリ (Ver2.x) のメニュー画面 >



< Windowsクライアント版アプリ (Ver3.x) のメニュー画面 >



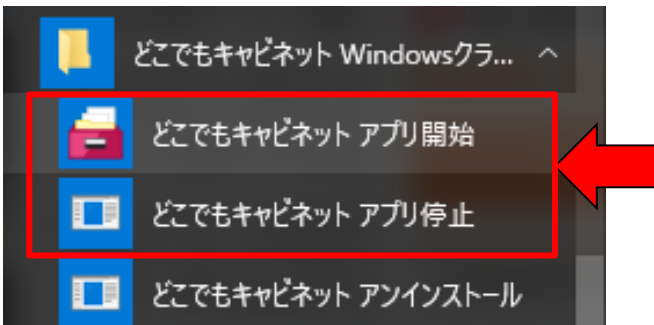
Ver3では「編集の自動開始」が追加され、ファイルを開いたときに自動的に編集を開始するか選択することができます。

アプリの動作が不安定な場合のリフレッシュ動作が異なる

●アプリの動作が不安定な場合のリフレッシュ手順

Windows版アプリ（Ver2.x）	パソコンの再起動またはどこでもキャビネットをサービス再起動します。
Windowsクライアント版アプリ（Ver3.x）	Windowsのスタートメニューから「アプリ停止」後に、「アプリ開始」を実行します。

< Windowsクライアント版アプリ（Ver3.x）のメニュー画面 >



< Windowsクライアント版アプリ（Ver3.x）のリフレッシュ効果 >

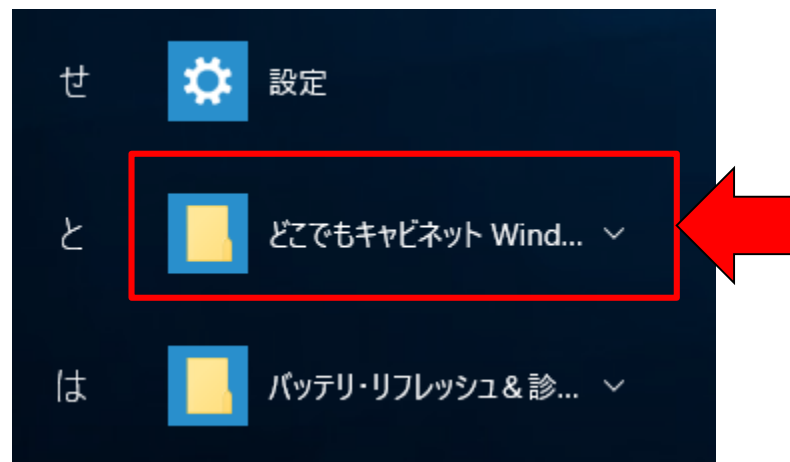
概要	効果
エクスプローラの再認識	エクスプローラのクラッシュによる不安定の解消等
どこキャビフォルダーの再監視依頼	ディスク異常による不安定の解消等
アカウントのチェック	管理者機能による変更の再認識
データベースのリセット	何らかの原因によるデータベース不整合の解消
メモリのリセット	メモリ分断等によりパフォーマンス低下解消等

インストールされているかどうかの確認場所が異なる

● インストールの確認場所

Windows版アプリ (Ver2.x)	コントロールパネルに「どこでもキャビネット」があるかどうかを確認します。
Windowsクライアント版アプリ (Ver3.x)	Windowsのメニューに「どこでもキャビネット」があるかどうかを確認します。

< Windowsクライアント版アプリ (Ver3.x) のメニュー画面 >

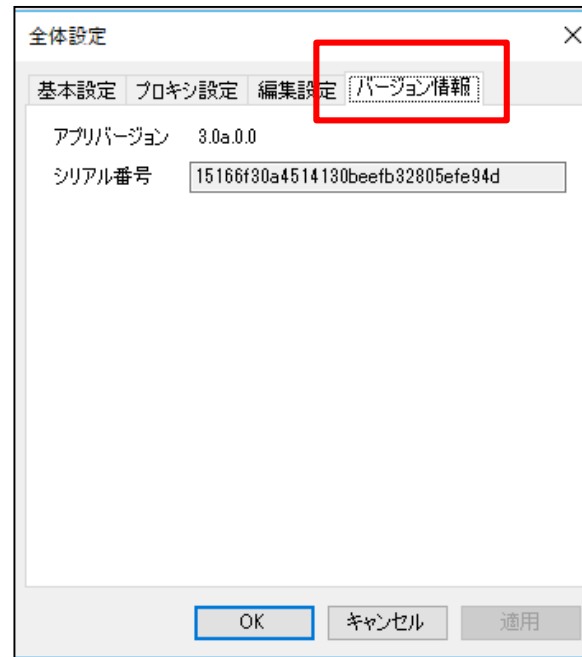


タスクバーのメニュー(全体設定-[バージョン情報])が異なる

●全体設定

Windows版アプリ (Ver2.x)	該当メニューなし
Windowsクライアント版アプリ (Ver3.x)	全体設定に「バージョン情報」タブが追加されました。

< Windowsクライアント版アプリ (Ver3.x) のメニュー画面 >



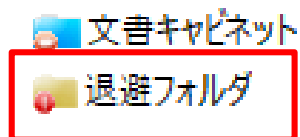
Ver3では「バージョン情報」タブからバージョンとシリアル番号を確認することができます。

退避フォルダの表示と場所が異なる

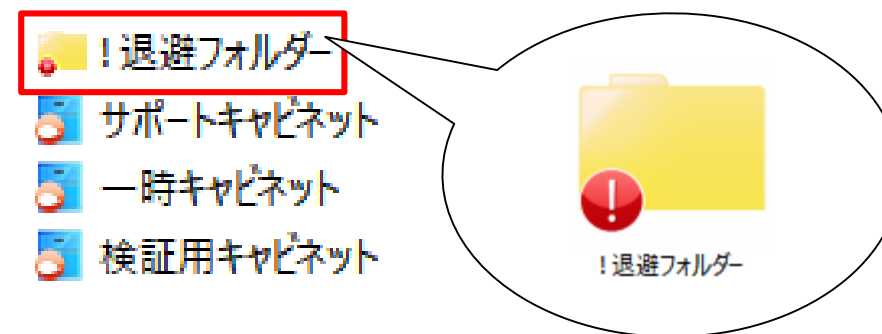
●退避フォルダの表示と場所

Windows版アプリ (Ver2.x)	赤のビックリマークアイコン付黄色いフォルダで、「退避フォルダ」として一番下に表示されます。
Windowsクライアント版アプリ (Ver3.x)	赤のビックリマークアイコン付黄色いフォルダで、「!退避フォルダー」として一番上に表示されます。

< Windows版アプリ (Ver2.x) の一覧画面 >



< Windowsクライアント版アプリ (Ver3.x) の一覧画面 >



サーバーとの情報同期のタイミングが異なる

●サーバーとの情報同期のタイミング

Windows版アプリ（Ver2.x）	10分毎に実施している同期を待つか、該当フォルダを右クリックして「サーバー最新状態確認」メニューを選択して同期します。
Windowsクライアント版アプリ（Ver3.x）	該当フォルダに移動したタイミングでサーバと同期します。 フォルダを表示したままの場合は、該当フォルダ内のみ10分後に同期されます。 「自動ダウンロード」に設定した場合は、移動の有無に関係なく10分毎に同期します。

全体の同期方法が異なる

●全体の同期方法

Windows版アプリ（Ver2.x）	PCにどこでもキャビネットのデータベースを保持しており、24時間に1回すべてのデータを同期し、10分同期ですべての差分を同期します。
Windowsクライアント版アプリ（Ver3.x）	基本的に表示している画面内だけ自動で10分同期で差分を同期し、それ以外の場所は移動時に同期します。 ただし、自動ダウンロードに設定している場合は、表示しなくても10分毎に差分を同期します。

< Windowsクライアント版アプリ（Ver3.x）の一覧画面 >

！退避フォルダー

サポートキャビネット

一時キャビネット

検証用キャビネット

folder1
フォルダA
フォルダB

Ver3では、基本的に表示している画面内だけ10分同期

Photo-20181112-111
Photo-20181112-111
Photo-20181112-114

Ver3では、自動ダウンロードに設定している場合のみ、表示しなくても10分同期

folder1

フォルダA

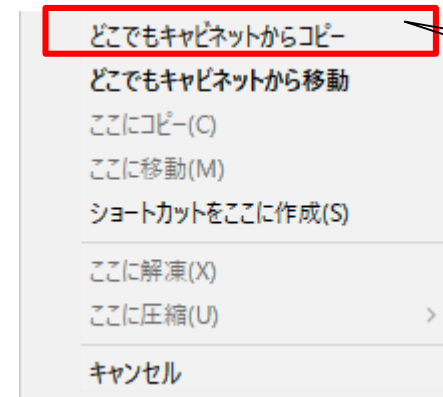
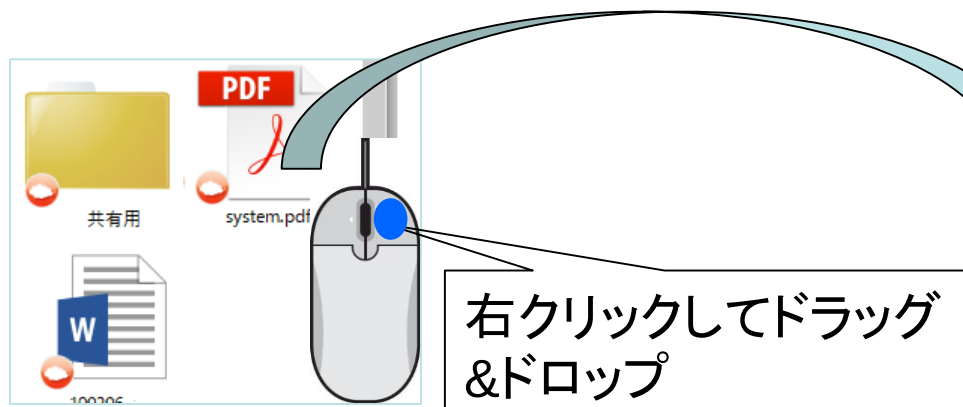
フォルダB

どこでもキャビネットからのファイルを移動・コピーする際の動作が異なる

●どこでもキャビネット内からパソコンのフォルダにデータを移動・コピーする場合の挙動が異なる

Windows版アプリ (Ver2.x)	どこキャビ内のファイルを「自動ダウンロード」にしていないとローカルのディスクに移動・コピーできません。 フォルダ階層ごとの場合は、配下全てのファイルが自動ダウンロードにならないと移動・コピーができません。
Windowsクライアント版アプリ (Ver3.x)	仮想状態でもファイル/フォルダをローカルのディスクに移動・コピーが可能です。 【ご注意事項】 ドラッグ&ドロップを行った場合、 <u>移動先が同じドライブ内の場合移動になります</u> 。コピーしたい場合は右クリックをしてドラッグ&ドロップし、「どこでもキャビネットからコピー」メニューを選択してください。

< Windowsクライアント版アプリ (Ver3.x) 画面 >



メニューが表示されますので、「どこでもキャビネットからコピー」を選択してコピー

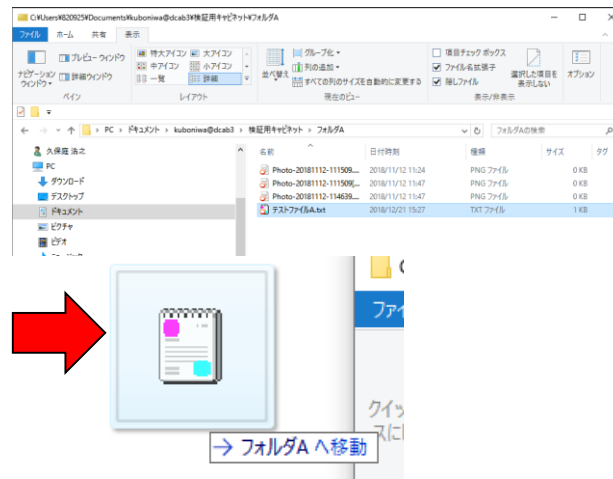
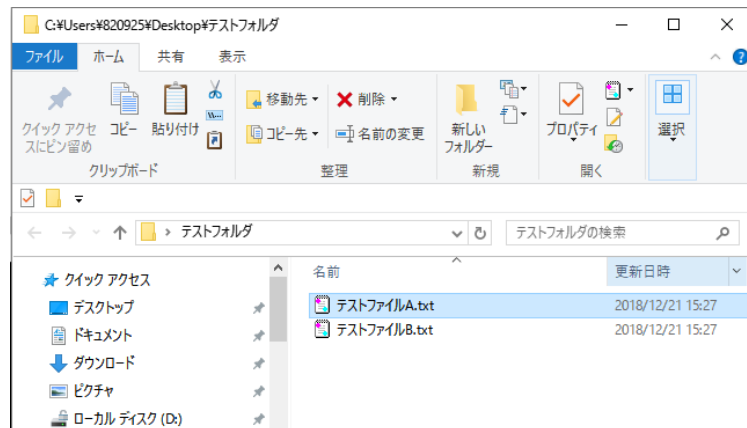
ファイルのドラッグ&ドロップ時の挙動が異なる

●ドラッグ&ドロップ時の挙動

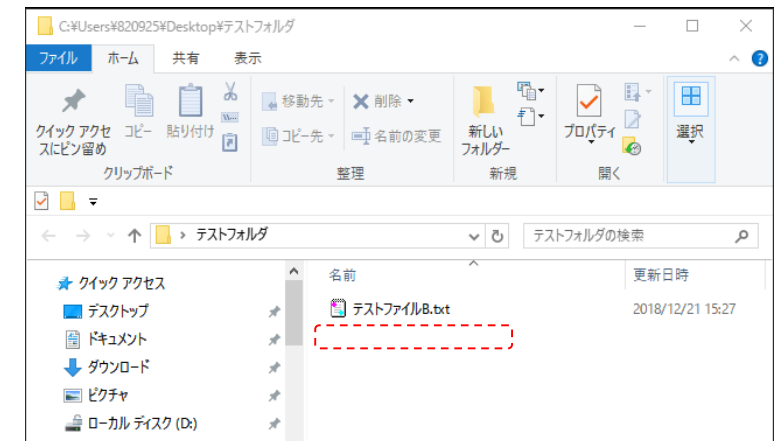
Windows版アプリ (Ver2.x)	ローカルのフォルダからどこキャビフォルダ内にドラッグ&ドロップをすると、「コピー」と表示され、コピーされます。（元ファイルはローカルに残ります。）
Windowsクライアント版アプリ (Ver3.x)	エクスプローラに準拠し、ローカルのフォルダからどこキャビフォルダ内にドラッグ&ドロップをする際、同じドライブ内の場合は「移動」と表示され、移動されます。（元ファイルはローカルからなくなります）別ドライブ間であれば、コピーされます。

< Windowsクライアント版アプリ (Ver3.x) の一覧画面 >

①テストファイルAをVer3のフォルダAへ移動



②元のテストファイルAはローカルからなくなる

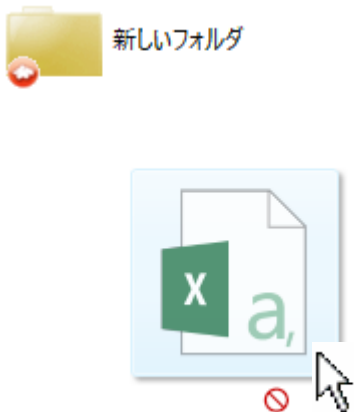


参照権フォルダへのファイル登録が異なる

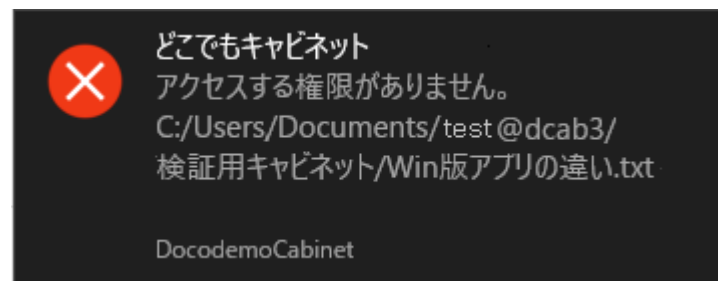
●参照権フォルダへのファイル登録時の挙動

Windows版アプリ (Ver2.x)	ドラッグ&ドロップ時点で進入禁止マーク（赤い○に斜め線）アイコンが表示されて登録できません。
Windowsクライアント版アプリ (Ver3.x)	ドラッグ&ドロップでき登録できますが、その後権限がないとエラーが表示しファイルが退避フォルダに移動されます。

< Windows版アプリ (Ver2.x) の進入禁止マーク >



< Windowsクライアント版アプリ (Ver3.x) のエラー画面 >



どこキャビが動作しているかどうかの確認方法が異なる

●どこキャビの動作状況の確認方法

Windows版アプリ（Ver2.x）	タスクマネージャでDocabUIとDocabSerevrServiceが動作しているかどうかで判断します。 ※win10の場合はバックグラウンドプロセス
Windowsクライアント版アプリ（Ver3.x）	タスクマネージャでDocodemoCabinet（32ビット）があるかどうかで判断します。

< Windows版アプリ（Ver2.x）の画面 >

>  Docab.ServerService (32 ビット)
 Docab.UI (32 ビット)

< Windowsクライアント版アプリ（Ver3.x）の画面 >

>  DocodemoCabinet (32 ビット)

アンインストール方法が異なる

●参照権フォルダへのファイル登録時の挙動

Windows版アプリ (Ver2.x)	コントロールパネルのアプリ一覧からどこキャビを選択してアンインストールを実行
Windowsクライアント版アプリ (Ver3.x)	Windowsメニューから「どこでもキャビネット アンインストール」から実行

< Windowsクライアント版アプリ (Ver3.x) のWindowsメニュー画面 >

